

町田会長、志半ばで逝く

三浦副会長が会長代行に



秋田高校同窓会第10代会長の町田睿氏が平成30年1月30日、自宅のある千葉県柏市の病院で逝去されました。享年79。心からお悔やみ申し上げます。

町田会長は平成26年6月に同窓会長に就任し、29年6月の総会で再選され2期目に突入したばかりでした。会長在任3年7カ月。会長就任のあいさつでは、「郷土秋田の再生のために同窓会としても積極的に関わりたい」と述べ、郷土創生特別委員会を新たに立ち上げるなど指導力を発揮されました。

町田会長は秋田高（昭和31卒）―東大法学部卒業後、富士銀行（現みずほ銀行）に入行。常務取締役などを経て荘内銀行頭取に就き、北都、荘内両行の経営統合に伴い発足した持ち株会社フィデアホールディングスの取締役会議長に就任されました。死去当時は同ホールディングス相談役、北都銀行会長でした。平成24年から2年間は、山形県酒田市の東北公益文科大の学長を務められました。

町田会長の死去に伴い、三浦廣巳副会長（昭和44卒）が会長代行を務めることになりました。「副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、又は会長が欠けたときは、会長があらかじめ定めた順序により、その職務を代行する」との同窓会会則にのっとり、町田会長が生前、万一の場合には6人いる副会長のうち三浦副会長にお願いするよう明確に指示していたためです。なお歴代同窓会長で、現職で亡くなられたのは第5代会長の内藤庸男氏（昭和59年9月死去）、第8代会長の辻兵吉氏（平成20年7月死去）に次いで3人目となります。あらためてご冥福をお祈りいたします。

故町田睿会長のご逝去を悼み、謹んでお悔やみ申し上げます。

経営者として、日本社会や地域への熱い思いと情熱を持ったリーダーとして、多方面にわたり行動し、発信されてきた町田会長のご逝去は残念でなりません。

荘内銀行頭取時代、当時の酒田商工会議所・新田会頭との連携で地域の活性化にかけた情熱と活躍ぶりは、秋田にいる私の気持ちを揺さぶり続けてまいりました。その後、フィデアホールディングス設立とともに故郷秋田に帰ってこられました。早くお目にかかって教えをいただきたいと

切に願っております。お忙しい中、若手経営者の勉強会に快く出席いただき、講演をしていただきました。少子高齢化と人口減少が進む郷土秋田から大きな変革を始めなければならぬ、と喝破しておられました。驚愕に接し、私

町田先輩、さようなら

たちにとって、どれほど大きな力となったか計りしれません。

そうした中、秋田高校同窓会会長に就任され、新たな同窓会の在り方に着手されました。中でも国際化の進む現在、実際の経験を生徒にさせたい

というお気持ちで、タイ王国の高校との交流事業を実施されました。生徒たちにとって、直接異文化に触れて英語で交流するということは大きな経験であり、多感な時代の驚きが彼らの将来にどんなにか好影響をあたえるか知れま

せん。また、同窓会としては初めての試みである、郷土創生特別委員会を立ち上げ、秋田高校同窓会はその持てる力を故郷秋田の創生に資するべし」との理念に基づいてスタート致しました。ご生前中のご指導に心から



三浦副会長（右）と笑顔で並ぶ、在りし日の町田会長

合掌
（副会長・三浦廣巳）

感謝申し上げ、頂いた数々のお教えを心に刻み、行動してまいる所存です。心からの感謝の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。ありがとうございます。

天上天下

TENJO TENGE

母校の校舎は、幾多の変遷をたどって現在に至っている。終戦後、それまで手形にあった校舎は進駐軍に接収され、その校舎はあろうことか進駐軍の不始末で全焼してしまふ。校舎がなく、小学校での分散授業を余儀なくされた時期もある▼秋田駅前前の旧兵舎を仮校舎とした後、駅前校舎本館が完成したのは昭和23年2月だった。先輩たちの喜びはいかばかりだったろう。37年春に現在地に移転するまでの14年間、木造の駅前校舎は多くの思い出を刻んだ▼町田睿さんも駅前校舎に通った一人である。通ったというより、「秋高の敷地で生活した」と言った方が正確かもしれない。何せ父親が秋田高の教師であり、敷地内にある教員住宅で家族が生活していたから、昼食も家で食べていたとか。当時の校舎への思い入れは人一倍強かったのではなか▼母校、そして故郷への思い入れも人一倍強かった。昨年の同窓会総会でのあいさつが今も耳に残る。「有名大学進学を競う時代から、地域が必要とする人材育成に力を入れる時代になった」。教育とは何か」との根源的な問い掛けに思える。本当に惜しい大先輩を失った。